



なつめ 1月号

(編集・発行)
鹿児島市立喜入小学校
(発行日)
令和4年1月26日

「見方・考え方を働かせる学び」

校長 内村 英人

最後の学期である3学期も、はや一月が過ぎて、本年度の学校生活も残り40日ほどです。春の芽吹きに備えて、子どもたちの学びが深まるように努めてまいります。

さて、学びを深めるためには、「見方・考え方」を働かせて学ぶことが鍵であると言われていいます。本校の授業改善の研究も、これを重視しています。国語を例に挙げれば、「着目すべき言葉は何か」とか「その言葉は正確に使われているか、適切に使っているか、効果的な使い方か」といったことを考えるということです。

本年度も私の我儘で授業をさせてもらいましたので、その時の様子の中から、子どもが見方・考え方を働かせていたと思われる場面を御紹介します。

〔11月 4年生国語 説明文「世界にほこる和紙」の授業より〕

私「それでは、和紙のよさを一言で言うとしたらどういうことになる？」

子「『長持ちする』です。」(第5段落を根拠に)

子「『長く保管できる』ですよ。」(第6段落を根拠に)

私「意味は一緒？」

子「違います。」 子「えっ！ 一緒だよ。」

子「『長持ちする』は、破れたりせずに長く持つってことだけど、『長く保管できる』は、人が長くとっていられるってことだから、意味は違います。」

子「一緒だと思います。例えば、食べ物が長持ちするいうときに、冷蔵庫に長く保管していても長持ちするって言ったりします。だから、同じ意味だと思います。」

子「『長く保管できる』の中には、『やぶれにくい』っていう意味も入ると思うから、和紙のよさっていうなら『長く保管できる』がいいんじゃないですか。」

子「それだったら、『やぶれにくい』と『長持ちする』って、二つ言った方が分かりやすいじゃん。」

言葉の意味や使い方、言葉と言葉の関係などについて、よく議論しました。



〔1月 6年生国語 「思い出を言葉に」の授業より〕

(活動1)掃除から思い出される言葉を思いつく限り洗い出す。

(活動2)言葉を選びながら全員で一つの俳句をつくり、卒業文集への掲載決定かボツかを全員で判定する。

「水道で雑巾しぼり気持ちいい」←「ボツ」「伝えたいことがぼんやり」

(活動3)伝えたいことを問い直して、言葉を選び直す。

私「水が気持ちいいってこと？ 『6年生になった』という思い？」

子「6年生のスタートというか、手本になりたいという気持ちです。」

「雑巾と決意固めた新学期」←「ボツ」「『雑巾を固める』はおかしい。」

「新学期決意固めて床みがく」←「ボツ」「新学期は3回ある。1学期のことだと分からない。」

「春の日に決意固めて床みがく」←判定が割れる。「ボツの理由:6年生の春だと分からない。」

伝えたいことを明確にするために選び抜いた言葉で表現することをがんばりました。

見方・考え方を働かせて言葉を学ぶことは、感性を磨くことに、論理を学ぶことに、他者とのかわり方を学ぶことに、さらには自分や他者の思いや願いを見つめることにつながっていきます。ですから、どのような見方・考え方を身に付けていくかはとても大切です。

某局のテレビドラマで、主人公のこんなセリフがありました。「真実は、人の数だけあるんです。」見方・考え方が違えば、いくつもの真実が生まれるということでしょう。主人公の言葉が気になって、毎週このドラマを観るのがルーティーンになりそうな私です。



抵抗力を高めましょう (十分な睡眠 適度な運動 バランスのとれた食事)